

専門実践教育訓練明示書(看護学科2年課程)

講座の名称	看護学科2年課程																
実施方法	① 通学 (昼間) ・ 夜間 ・ 土日) ② 通信 スクーリング(回数 回)																
指定講座番号	0	8	1	0	0	0	6	—	1	5	1	0	0	3	1	—	7
講座の 創設年月日	専門実践教育訓練給付金 対象講座の指定期間			過去一年 の 講座実績			入講者数(19人)					修了者数 (14人)					
平成16年4月1日	令和6年3月31日まで																
訓練期間	24ヶ月						総訓練時間						2,190時間				
1. 教育訓練目標																	
①取得目標とする資格の名称、目標レベル				<input checked="" type="checkbox"/> 業務独占資格・名称独占資格 (看護師) <input type="checkbox"/> 職業実践専門課程 () <input type="checkbox"/> キャリア形成促進プログラム () <input type="checkbox"/> 専門職大学院 () <input type="checkbox"/> 職業実践力育成プログラム () <input type="checkbox"/> 情報通信技術関係資格 () <input type="checkbox"/> 第四次産業革命スキル習得講座 () <input type="checkbox"/> 専門職大学、専門職短期大学、専門職学科 () 教育訓練を通じて取得を目指す上記以外の資格等													
②①に係る資格・試験等の実施機関名称				厚生労働省													
③当該資格等を取得するための要件または受験資格等				本学に原則2年以上在籍し、履修科目66単位を修得し、卒業認定会議を経て卒業を認定されること。かつ保健師助産師看護師学校養成所指定規則で定める科目及び単位を修得すること。													
④当該技能・知識の習得が必須又は有利となる職種・職務及び習得された技能・知識が活用されている業界と活用状況				医療機関 老人福祉施設、介護老人保健施設等の看護職員として活用される													
2. 教育訓練の内容																	
教科(カリキュラム)	時間	使用教材名															
論理的思考	30 時間																
情報科学	30 時間	例題30+演習問題70でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキスト (Windows10/Office2019対応版) 系統看護 統計学															
看護と科学	30 時間	完全版 ベッドサイドを科学する															
社会学	30 時間	ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障①健康と社会・生活															
看護に生かす教育学	30 時間	看護のための教育学															
心理学	30 時間	新 医療と看護のための心理学 看護のための人間発達学 第5版															
英語	30 時間	病院の中の英会話 第2版															
解剖生理学 I	30 時間	専門基礎分野 一人体の構造と機能[1] - 解剖生理学 解剖トレーニングノート 第7班 ワークアウト解剖整理ブック 目で見るからだのメカニズム 第2版															
解剖生理学 II	30 時間	専門基礎分野 一人体の構造と機能[1] - 解剖生理学 目で見るからだのメカニズム															
生化学	30 時間	専門基礎分野 人体の構造と機能 [2] 生化学															
病理学 I	30 時間	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[1]病理学 目で見るからだのメカニズム 臨床外科看護総論 臨床病態学 総論 第2版															
病理学 II	30 時間	専門分野 II 成人看護学[2]呼吸器 専門分野 II 成人看護学[3]循環器 専門分野 II 成人看護学[7]脳・神経 目で見るからだのメカニズム第2版															

教科(カリキュラム)	時間	使用教材名
病理学Ⅲ	30 時間	専門分野Ⅱ成人看護学[5]消化器
		専門分野Ⅱ成人看護学[6]内分泌・代謝
		専門分野Ⅱ成人看護学[8]腎・泌尿器
		専門分野Ⅱ成人看護学[9]女性生殖器
		目で見るからだのメカニズム第2版
病理学Ⅳ	30 時間	専門分野Ⅱ成人看護学[4]血液 造血器
		専門分野Ⅱ成人看護学[10]運動器
		専門分野Ⅱ成人看護学[11]アレルギー・膠原病感染症
		専門分野Ⅱ成人看護学[14]耳鼻咽喉
		専門分野Ⅱ成人看護学[13]眼
		目で見るからだのメカニズム第2版 臨床病態学 3巻 第2版
微生物学	30 時間	専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[4]微生物学
看護栄養学	30 時間	看護栄養学 第4版
		栄養素の通になる 第5版
薬理学	30 時間	ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち② 臨床薬理学 第4版
社会福祉	30 時間	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3]社会福祉
保健医療論	30 時間	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[1]総合医療論
		別巻 看護倫理
関係法規	15 時間	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[4]看護関係法令
公衆衛生学	30 時間	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2]公衆衛生
		厚生指針 臨時増刊 国民衛生の動向
		公衆衛生がみえる
看護学概論	30 時間	専門分野Ⅰ 基礎看護学[1]看護学概論
		『看護覚え書』第7版
		看護者の基本的責務 2020年版
基礎看護学方法論Ⅰ	30 時間	専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ
		専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ
		学生のためのヒヤリハットに学ぶ看護技術
		根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版
		専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ
		トラベルビー 人間対人間の看護
基礎看護学方法論Ⅱ	30 時間	看護がみえる Vol.3 フィジカルアセスメント
		専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ
		専門分野Ⅱ 成人看護学[1]成人看護学総論
		看護のための教育学
基礎看護学方法論Ⅲ	30 時間	専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ
		根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術
基礎看護学方法論Ⅳ	30 時間	専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ
		専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ
		根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術
		専門分野Ⅰ 基礎看護学[4]臨床看護総論
		別巻 臨床外科看護総論 緩和・ターミナルケア看護論 第2版
基礎看護学方法論Ⅴ	30 時間	専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ
		別巻 臨床検査
		看護がみえる Vol.4 看護過程の展開
		看護診断ハンドブック 第11版
基礎看護学方法論Ⅵ	15 時間	専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ
		専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ
		看護がみえる Vol.4 看護過程の展開
成人看護学概論	30 時間	専門分野Ⅱ 成人看護学[1]成人看護学総論
		看護のための人間発達学 第5版
		公衆衛生がみえる
成人看護学方法論Ⅰ	30 時間	専門分野Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器
		専門分野Ⅱ 成人看護学[3]循環器
		専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器
		専門分野Ⅱ 成人看護学[10]運動器
成人看護学方法論Ⅱ	30 時間	専門分野Ⅱ 成人看護学[6]内分泌・代謝
		専門分野Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器
		専門分野Ⅱ 成人看護学[4]血液・造血器
		専門分野Ⅱ 成人看護学[9]女性生殖器
老年看護学概論	30 時間	専門分野Ⅱ 老年看護学
		公衆衛生がみえる
老年看護学方法論Ⅰ	30 時間	専門分野Ⅱ 老年看護学 根拠と事故防止からみた 老年看護技術 第3版

教科(カリキュラム)	時間	使用教材名
老年看護学方法論Ⅱ	30 時間	専門分野Ⅱ 老年看護学
		専門分野Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器
		専門分野Ⅱ 成人看護学[3]循環器
		専門分野Ⅱ 成人看護学[7]脳・神経
		専門分野Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器
		専門分野Ⅱ 成人看護学[10]運動器
小児看護学概論	30 時間	専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論
		看護のための人間発達学 第5版
		公衆衛生がみえる
小児看護学方法論Ⅰ	30 時間	専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論
		専門分野Ⅱ 小児看護学[2]小児臨床看護各論
		写真でわかる小児看護技術 アドバンス
		看護のための人間発達学 第5版
小児看護学方法論Ⅱ	30 時間	専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論・小児臨床看護総論
		専門分野Ⅱ 小児看護学[2]小児臨床看護各論
		新訂版 写真でわかる小児看護技術 アドバンス
		看護のための人間発達学 第5版
母性看護学概論	30 時間	専門分野Ⅱ 母性看護学[1]母性看護学概論
		専門分野Ⅱ 母性看護学[2]母性看護学各論
		公衆衛生がみえる
母性看護学方法論Ⅰ	30 時間	専門分野Ⅱ 母性看護学[2]母性看護学各論
母性看護学方法論Ⅱ	30 時間	専門分野Ⅱ 母性看護学[2]母性看護学各論
精神看護学概論	30 時間	精神看護学Ⅰ 精神保健学
		看護のための人間発達学 第5版
精神看護学方法論Ⅰ	30 時間	精神看護学Ⅰ 精神保健学
		精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学
精神看護学方法論Ⅱ	30 時間	精神障害をもつ人の看護 第5版
		精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学
成人看護学実習	90 時間	
老年看護学実習	90 時間	
小児看護学実習Ⅰ	45 時間	
小児看護学実習Ⅱ	45 時間	
母性看護学実習	90 時間	
精神看護学実習	90 時間	
在宅看護論概論	30 時間	在宅看護論
		公衆衛生がみえる
在宅看護論方法論Ⅰ	30 時間	在宅看護論
		新訂版 写真でわかる訪問看護 アドバンス
在宅看護論方法論Ⅱ	30 時間	在宅看護論
		写真でわかる訪問看護 アドバンス
看護研究	30 時間	看護研究のための文献検索ガイド 第4版
		看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方
災害看護	30 時間	統合分野 看護の統合と実践[3]災害看護学・国際看護学
		専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ
看護管理	30 時間	統合分野 看護の統合と実践[1]看護管理
		統合分野 看護の統合と実践[3]災害看護学・国際看護学
統合技術	30 時間	統合分野 看護の統合と実践[2]医療安全
		統合分野 看護の統合と実践[1]看護管理
		医療安全とリスクマネジメント
		学生のためのヒヤリハットに学ぶ看護技術
基礎看護学実習	90 時間	
在宅看護論実習Ⅰ	45 時間	
在宅看護論実習Ⅱ	45 時間	
看護の統合と実践実習	90 時間	
合計	2190 時間	

3. 受講者となるための要件(この講座を受講するために必要とされている条件など)

①受講するに当たって必要な実務経験等	特になし
②受講者が受講に最低限有しておくべき資格・技能・知識等の内容及びその水準	・入学許可までに准看護師免許を有する見込み又は准看護師免許を有していること(中学校を卒業した准看護師は業務経験3年以上を有すること)
③その他	

〔特記事項〕

--

専門実践教育訓練明示書(看護学科2年課程)

4. 教育訓練の受講の実績及び目標達成の状況					
(1) 資格取得状況					
① 前年度の修了者数	14	人			
② ①に係る教育訓練の入講者数	17	人			
③ ②のうち目標資格の受験者数	14	人	受験率(③/②)	82%	
④ ③のうち合格者数	14	人	合格率(④/③)	100%	
⑤ ①(修了者数)のうち就職者数 ※1	14	人			
⑥ ①(修了者数)のうち在職者数 ※2	0	人			就職・在職率(⑤+⑥/②)
※1 前年度の修了者のうち、受講開始時に職に就いていなかった者で修了後に就職した者。 この場合、就職したとは、臨時的な仕事に就職した者は含めない。 ※2 受講開始時に既に職に就いていた者で、卒業後も引き続きその職にある者及び受講開始時に既に職に就いている者で、修了後に別の職に転職した者。					
(2) 受講修了者による講座の評価等					
① 回答者総数	14	人			
② 受講開始時の就業状況等	1 正社員	0			人
	2 非正社員、派遣社員	0	人		
	3 その他の就業(自営業等)	0	人	0	
	4 非就業	14	人	②B: 非就業者計	
③ 就業中の受講者による講座の評価	1 処遇の向上(昇進、昇格、資格手当等)に役立つ	0	人	③の回答数合計 ※②Aと同数(又はそれ以下)	
	2 配置転換等により希望の業務に従事できる	0	人		
	3 社内外の評価が高まる	0	人		
	4 円滑な転職に役立つ	0	人		
	5 趣味・教養に役立つ	0	人		
	6 その他の効果	0	人		
	7 特に効果はない	0	人		0
④ 就業していない受講者による講座の評価	1 早期に就職できる	1	人	④の回答数合計 ※②Bと同数(又はそれ以下)	
	2 希望の職種・業界で就職できる	10	人		
	3 より良い条件(賃金等)で就職できる	2	人		
	4 趣味・教養に役立つ	0	人		
	5 その他の効果	1	人		
	6 特に効果はない	0	人		14
⑤ 受講者の就業状況	1 受講中又は受講修了後3か月以内に就職した	14	人	⑤の回答数合計 ※②Bと同数(又はそれ以下)	
	2 受講修了後3～6か月以内に就職した	0	人		
	3 受講修了後6～12か月以内に就職した	0	人		
	4 就職していない	0	人		14
⑥ 講座の全体評価	1 大変満足	8	人	⑥の回答数合計 ※①と同数(又はそれ以下)	
	2 おおむね満足	5	人		
	3 どちらとも言えない	1	人		14
	4 やや不満	0	人		
	5 大いに不満	0	人		
(3) 受講者、受給者の修了後の状況(就職等の状況、受講修了者による教育訓練への評価状況、受講後の職務内容変化等の処遇改善の状況、一定期間内でのキャリアアップ成果やその事例、在籍・採用企業の側の評価等)					
講座修了者29名全員が資格を取得し、県内外への医療機関への就職および進学をしている					
5. 教育訓練の受講による効果の把握及び測定の方法並びにそのレベルを受講者に対して明らかにするための具体的な方法					
1に掲げた教育訓練目標に対する技能・知識のレベル到達度の把握・測定方法	・技能は、実習での確認及び総合技術演習 ・知識は、学科毎の試験				
(通信制講座の場合) スクーリングの実施場所、時期、期間・回数					

専 門 実 践 教 育 訓 練 明 示 書(看護学科2年課程)

6. 受講効果の把握方法			
(1) 受講認定基準 (6ヶ月ごとの出席率・定期試験・進級試験等の具体的基準)	出席率66%(2/3)以上、試験合格率得点率60%以上で合格、補講・追試は認める。		
(2) 受講認定基準に係る、教育目標に対する技能・知識のレベル到達度把握・測定方法	ペーパーテスト及び演習		
(3) 修了認定基準 (出席率・修了認定試験等の具体的な基準)	出席率66%(2/3)以上、試験合格率その他、補講・追試は認める。 学科66単位すべての単位が認定されること		
(4) 修了認定基準に係る、教育目標に対する技能・知識のレベル到達度把握・測定方法	・技能は、実習での確認及び総合技術演習 ・知識は、学科毎の試験		
7. 受講中又は修了後における受講者に対する指導及び助言並びに支援の方法			
(1) 受講中の者に対する習得度・理解度に関する具体的な助言・指導の方法	定期面接や実習における個別指導を行う		
(2) 受講中又は修了時における資格取得・就職への具体的なバックアップ体制 (例: 資格取得関連情報や資格関連職種の人事情報の提供方法、早期就職に向けた具体的な相談体制の整備状況)	・看護師国家試験対策は1年時から計画的に実施 (外部模試の活用、外部講師の講義、学内外教員による補講等) ・就職については就職説明会の開催や医療機関パンフレットの閲覧、教員の個別面接等で支援		
8. その他の事項			
指定教育訓練実施者名及び代表者名	茨城県	(代表者名: 大井川 和彦)	
住所及び連絡先	茨城県水戸市笠原町978番6	TEL 029-301-3151	
施設名称及び施設長名	茨城県立中央看護専門学校	(施設長: 小島 朋子)	
住所及び連絡先	茨城県笠間市鯉淵6528	TEL0296-77-0533	
苦情受付者	氏名 前川 泰規 所属	事務担当者	氏名 堤 広子 所属 庶務
連絡先	TEL 0299-77-0533	連絡先	TEL 0299-77-0588
専門実践教育訓練経費 支払い方法 ① 一括払 ② 分割払 ③ 両方可	1. 専門実践教育訓練給付金の対象となる経費 (① + ②)		339,250 円
① 入学料 (税込額) (※割引・還元措置を実施した場合にはその差引き後の税込額とすること。)		5,650 円	
② 受講料 (税込額) (※割引・還元措置を実施した場合にはその差引き後の税込額とすること。)		333,600 円 (第1期 83,400 円 第2期 83,400 円 第3期 83,400 円 第4期 83,400 円 第5期 0 円 第6期 0 円 (うち、必須教材費 0 円))	
2. 専門実践教育訓練給付金の対象外となる経費 (① + ② + ③ + ④)		310,000 円	
① 任意の教材費(税込額)		65,000 円	
② 実習等に伴う交通費・宿泊費(税込額)		0 円	
③ 施設維持費(税込額)		6,600 円	
④ その他(法人への寄付金、PCの損害保険料、情報誌代) (税込額)		238,400 円	
3. 総額 (1+2) (税込額)		649,250 円	